

## I. 総括的概要

平成 25 年度の日本 YEG は『『高き志を持ち 共に進もう 輝ける未来のために』～YEG の絆を力に変えて～』をスローガンに、「東日本大震災復興支援」「ビジネス支援」等を中心に活動を展開した。

「東日本大震災復興支援」については、「災害等に備えた経営手法を学ぶ」「メンバー同士の交流・研鑽を通じ、有事に対応できるネットワークの構築」「震災の記憶の風化防止」を目的に、8月23日～24日、岩手県北上市を中心に「震災復興フォーラム in いわて」を開催。同フォーラムは、全国から YEG メンバー約 500 人が参加のもと、23日に北上市（岩手県）でシンポジウムを開催した他、24日には分科会として被災地（大船渡市、釜石市（岩手県）、気仙沼市（宮城県）等）の現状視察を行った。

「ビジネス支援」については、全国の YEG メンバーを対象に同業種間の横の繋がりを提供する「業種別部会交流会」（守口門真（7月6日）、五所川原（11月30日）、宇都宮（26年2月21日）、計約 850 名が参加）、新たなビジネスチャンスの創出や、自社の隠れた可能性の発見を目的に異業種間で交流する「ビジネス交流会」（長崎（8月20日）、さいたま（11月8日）、豊田（12月21日）、計約 520 名が参加）を開催した他、YEG メンバーの販路開拓を支援する「YEG モール」の PR、全国の青年部メンバー同士のビジネスマッチングを促進する「ご縁満開ビジネスサイト」の運営等を行った。

また、会員相互の「親睦・交流」「研修・研鑽」を促進し、各地の YEG 活動の活性化を図ることを目的として、全国 9 ブロックにおけるブロック大会（計 10,727 名参加）、「第 31 回全国会長研修会肥後火の国みなまた塾」（11月21日～23日、熊本県水俣市、1,441 名参加）、「第 33 回全国大会とちぎ宇都宮大会」（26年2月20日～23日、栃木県宇都宮市、4,732 名参加）を開催し、各地商工会議所青年部の意識高揚、連携強化等を図った。さらには、経営者としてのリーダー力向上を目的とした「翔生塾」、経営能力やプレゼンテーション能力の資質向上研修も盛り込んだ「ビジネスプランコンテスト」、若手国家公務員との交流・意見交換を行う「故郷の新しい風会議」、開催地に関わりのある若手国家公務員および若手地方公務員との交流・意見交換を行う「共に進もう 輝ける未来の風会議」の開催、日本商工会議所への「税制改正に関する提言書」「平成 25 年度政策提言書」の提出等、多岐にわたって商工会議所青年部およびメンバー企業の発展に資する活動を展開した。

平成 25 年度 4 月 1 日現在の日本商工会議所青年部加入青年部は 403 カ所であったが、精力的な会員増強活動により 5 カ所が新たに加わり、平成 26 年 3 月末現在、408 カ所となっている。また、日本商工会議所青年部に加入している青年部の総会員数は 29,315 人（平成 25 年 5 月 1 日現在）となっている。

## 平成 25 年度日本商工会議所青年部事業計画

### スローガン

『高き志を持ち 共に進もう 輝ける未来のために』  
～ YEGの絆を力に変えて ～  
所 信

平成23年3月11日、東日本大震災が発生しました。突然の激しい横揺れに揺られながら私自身も覚悟を決めたほどの大きな地震でした。ライフラインが寸断され、安否や被害状況も確認できないなかでの恐怖と混乱。その後で見た映像の凄まじさに言葉が出ませんでした。多くの尊い命が奪われ、愛する故郷も自然の大きな力で姿を変えられてしまいました。そうした中、日本国内はもとより世界中からたくさんの温かい支援の手が差し伸べられました事は、大変ありがたいと感じました。人の温かさや絆に触れる事が出来た事は生涯忘れる事はできません。

現在、復旧・復興が進められている地域もあれば、依然として遅れている地域もあります。はたして完全に復旧・復興するまでには一体どれほどの歳月が必要なのか？想像もつきません。このような状況下で、被災地より日本YEG会長を拝命したことは、被災地の現状をより多くの方にお伝えし、かつ被災地域の経済を少しでも勇気づける事が出来る唯一無二の機会を頂いたと捉え、改めて皆様に感謝するとともに、私自身に課せられた使命として被災地域を代表して一生懸命職責を全うする覚悟です。私は被災地域のいち早い復旧・復興こそが日本経済再生への近道だと信じております。その為にも被災地域への継続的な支援を行うと共に、今後全国各地で予想されている大地震や大災害に備え、我々YEGの仲間で協力できる体制を構築し、全国28,000名のYEG会員ネットワークを強化していく体制も積極的に作り上げて参ります。

我が国は震災からの復旧・復興のみならず、少子高齢化、社会保障と税の一体改革等多くの課題を抱えており、我々中小企業を取り巻く環境はますます厳しさを増しております。こうした厳しい状況は、我々YEGメンバーも例外ではなく、YEG（若き起業家集団）としてこの困難に立ち向かっていかなければなりません。企業は、利益を生み出し、納税し、そして地域の雇用を創出するという大変大きな役割を担うことで地域経済に大きく貢献しております。その為には自企業の持続的な成長・発展が必要であり、28,000名のYEGメンバーのネットワークを生かしたビジネスチャンスの創出を行っていきます。そして、企業の成長には経営者自身の資質向上も欠かすことができません。同じ志を持ったYEGメンバーとの交流・連携を通じ経営者としての自己研鑽の場を提供することにより個々の成長にも取り組んで参ります。

日本YEGは、昨年度設立30周年を迎えました。平成23年度はこれまでの活動とその成果について検証を行い、そして平成24年度には、諸先輩方の熱い志を引継ぎつつ、連合会からの飛躍を目指してYEG一揆の狼煙をあげました。本年度は、ここまで築き上げてきた日本YEGの歴史を尊重しながら、新たな一步（歴史を刻む）を踏み出して参ります。

全国408単会の連合会としてこれからの時代に即した組織を目指し進化すると同時に、全国の中小企業の声を集め提言活動を行うことによって、自企業の発展はもとより、それぞれの地域、そしてこの日本が元気を取り戻し、次代の子供達にバトンを渡せるよう共に頑張っているではありませんか！

## 運 営 方 針

全国403単会、28,000名のメンバーの集まりである連合会組織として、これからの時代に即した有意義な活動を行えるように「組織力強化」「ビジネス活動」「研修活動」そして「提言活動」の4つを重点事項として運営してまいります。

### (1) 組織力強化

全国の日本YEG未加入青年部、青年部未設置商工会議所への働きかけをするとともに、これからの時代に即した組織づくりを行っていきます。また、友好青年経済団体との連携を深めて参ります。

### (2) ビジネス活動

全国規模の連合会としてのメリットを生かし28,000名のYEGメンバーにとって会社経営に役立つ情報の提供や、YEGのネットワークを生かしたビジネスチャンスと被災地の支援に繋がるビジネスチャンスの創出を目指します。

### (3) 研修活動

様々な事業所・単会の発展に繋がるような、経済人としての資質向上や知識の習得に寄与する研修会の開催を行います。

### (4) 提言活動

国・地域・業界・個々の事業で抱える問題や要望など中小企業の生の声を取りまとめ検証し日本商工会議所に対し提言活動を行います。また若手国家公務員との「故郷の新しい風会議」の開催を実施します。